

能代山本定住自立圏共生ビジョン

平成28年3月

(平成29年3月 変更)

(平成30年3月 変更)

(平成31年3月 変更)

能 代 市

目 次

1. 定住自立圏共生ビジョンの概要	
(1) 定住自立圏構想の概要	1
(2) 定住自立圏共生ビジョンの目的	1
(3) 定住自立圏の名称及び構成市町	2
(4) 定住自立圏共生ビジョンの期間	2
(5) 定住自立圏共生ビジョンの進行管理	2
2. 圏域の概況	
(1) 圏域の位置・地勢	3
(2) 4市町の概況	3
(3) 人口・世帯	5
(4) 土地利用	9
(5) 医療・福祉	9
(6) 教育・文化	11
(7) 産業・雇用	12
(8) 公共交通	17
3. 圏域の将来像	
(1) 圏域の将来像	19
(2) 将来像の実現に向けて	19
4. 推進する具体的な取組	
(1) 生活機能の強化に係る政策分野	21
(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	34
(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野	42
5. 資料編	

1. 定住自立圏共生ビジョンの概要

(1) 定住自立圏構想の概要

定住自立圏構想とは、生活に必要な都市機能について一定の集積がある「中心市」と、住民生活等において中心市と密接な関係を有する「近隣市町村」が、定住の受け皿として「定住自立圏」を形成し、互いに連携・協力することにより、住民の生活に必要な機能を確保して定住を促進するとともに、圏域全体の活性化を図る構想です。平成21年4月から全国展開され、各地で取組が進んでいます。



資料：総務省

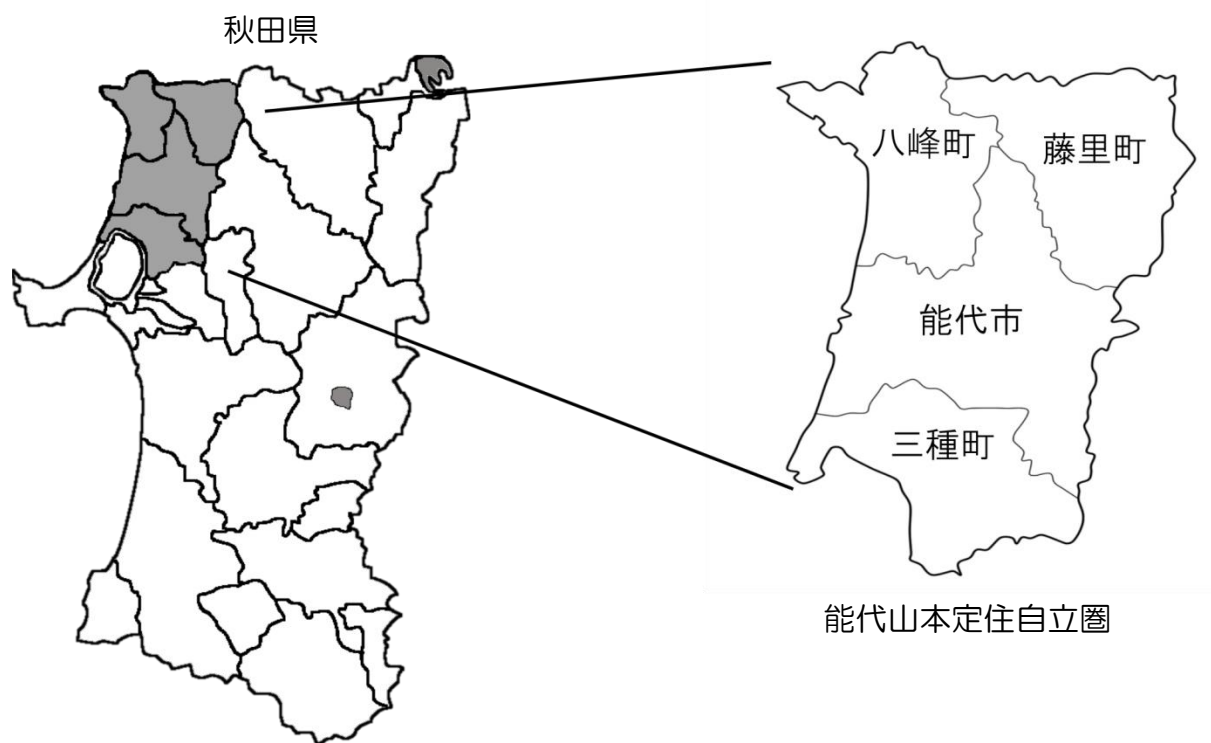
(2) 定住自立圏共生ビジョンの目的

本共生ビジョンは、定住自立圏構想推進要綱（平成20年12月26日総行応第39号総務事務次官通知）第6の規定により、定住自立圏形成協定の締結により形成された定住自立圏全体を対象として、圏域の将来像や、協定に基づき推進する具体的な取組内容を示すものです。

(3) 定住自立圏の名称及び構成市町

【名称】 能代山本定住自立圏

【構成市町】 能代市、藤里町、三種町、八峰町 (1市3町)



(4) 定住自立圏共生ビジョンの期間

本共生ビジョンの期間は、平成28年度から平成32年度までの5年間とします。

(5) 定住自立圏共生ビジョンの進行管理

本共生ビジョンの進行管理にあたっては、推進する具体的な取組に関する成果指標等を設定し、その達成状況等を踏まえて取組の評価・検証を行い、必要に応じて見直しを行います。

2. 圏域の概況

(1) 圏域の位置・地勢

能代山本地域は、秋田県北西部に位置し、東は大館・北秋田地域、西は日本海、南は男鹿・南秋地域、北は青森県に接しています。

白神山地の南の裾野に広がる地域で、米代川が地域のほぼ中央を東西に流れ、その下流から八郎湖周辺に低地が広がっています。

面積は、能代市、藤里町、三種町、八峰町の1市3町で約 1,191 km²となっており、その約7割が森林となっています。

(2) 4市町の概況

【能代市】

能代市は、秋田県北西部に位置し、北には世界自然遺産白神山地が連なり、東は北秋田市・上小阿仁村、西は日本海、南は三種町、北は八峰町・藤里町に接しています。面積は 426.95km²、東西約 30km、南北約 35km です。県都秋田市には 60~80km の圏内にあります。

東北地方を縦断する奥羽山脈に源を発する米代川が市域の中央を東西に流れ日本海に注ぎ、下流部には能代平野が広がります。砂防林として沿岸部に植樹された黒松林の「風の松原」、桜や紅葉が四季折々に彩る県立自然公園「きみまち阪」、天然秋田杉の群生する「仁鮎水沢スギ植物群落保護林」など、地域の誇れる宝が数多くあります。

また、秋田杉を中心とした木材加工のまちとして栄え、大正から昭和初期には「東洋一の木都」と称されました。現在も中心部には木材関連施設が集結するほか、多くの事業所や商業施設が集積しており、国県の機関や中核的な医療機関等も所在しているため、能代山本地域の中心的な都市となっています。

【藤里町】

藤里町は、秋田県の最北端に位置し、青森県との県境一帯は、標高 1,000m を超える山並みが連なる白神山地です。面積は 282.13 km²、約 9 割が森林です。町の東は北秋田市、西は八峰町、能代市に接し、南は能代市二ツ井町に通じています。

白神山地に水源を発する藤琴川・粕毛川は、中心部である藤琴で合流し、米代川へと通じています。粕毛川源流部は、世界自然遺産「白神山地」に登録された広大なブナ原生林核心部であり、容易に人を寄せつけない自然度を保っています。その流域には素波里多目的ダムや環境庁指定の素波里国民休養地が整備され、キャンプ等のアウトドア・レジャーで多くの観光客に親しまれていま

す。また、白神山地の核心部とほぼ同じ生態系を保つ、岳岱自然観察教育林など、貴重なエリアがあります。平成 24 年に全線開通した米代フォレストラインにより、能代市、八峰町からのアクセスも強化されています。

【三種町】

三種町は、秋田県北西部に位置し、東は上小阿仁村、南は男鹿市、大湊村、八郎潟町、五城目町、西は日本海、北は能代市に接しています。面積は、247.98 km²、東西が約 30km、南北が約 20km で、房住山に源を発する三種川が町のほぼ中央を流れ、八郎湖へと注いでおり、東部の丘陵地から西部の平坦地までゆるやかに傾斜した地勢となっています。

また、JR 奥羽本線とこれに並行する秋田自動車道、国道 7 号が南北に通っており、県都秋田市までは 1 時間ほどの所に位置しています。

天然秋田杉と広葉樹等の原生林が茂る房住山をはじめとして、自然環境に恵まれたエリアで、特にきれいな水質環境に育つことで知られる「じゅんさい」は、生産量日本一を誇ります。また、釜谷浜海水浴場は、県内屈指の水の美しさで「快水浴場百選」に選定されており、毎年多くの観光客が訪れています。

【八峰町】

八峰町は、秋田県北西部に位置し、世界自然遺産「白神山地」を仰ぎ、眼前には、日本海の大パノラマが展開しています。南は能代市、西は日本海、北は青森県に接しています。東西が約 19km、南北が約 24 km で、面積は 234.14 km²、面積の約 8 割が森林で占められています。町の広大な森林は、白神山地の一部で、秋田白神県立自然公園に指定されているエリアもあります。また、起伏に富んだ八森地区の海岸も八森岩館県立自然公園に指定されており、2つの県立自然公園を有する自然豊かなところです。

また、JR 五能線と国道 101 号が日本海沿いに並行し、南北を縦断、ともに眺望の美しい見所が各所にあり、観光客の目を楽しませています。日本海・奇岩、怪岩の連なる海岸美と、手軽に白神山地を一望できる二ツ森登山など、海から山へと多様な自然景観を持つエリアです。平成 24 年 9 月には、日本ジオパークに認定されています。

(3) 人口・世帯

圏域の総人口は、平成 22 年国勢調査で 90,028 人となっており、そのうち能代市の人口が全体の約 65%を占めています。

能代市の昼夜間人口比率は 1.05 となっており、藤里町、三種町、八峰町から能代市への通勤通学割合が、3町とも3割を超えています。

表 人口及び昼夜間人口比率

		能代市	藤里町	三種町	八峰町	計
夜間人口 (人)	A	59,084	3,848	18,876	8,220	90,028
昼間人口 (人)	B	62,077	3,265	16,376	7,241	88,959
昼夜間人口比率	B/A	1.05	0.85	0.87	0.88	—

資料：平成 22 年国勢調査

表 能代市への通勤通学割合

	常住する就業者数 及び通学者数 (人) A	うち能代市への就業者 数及び通学者数 (人) B	能代市への 通勤通学割合 B/A
藤里町	1,543	567	0.37
三種町	7,336	2,380	0.32
八峰町	3,200	1,424	0.45

資料：平成 22 年国勢調査

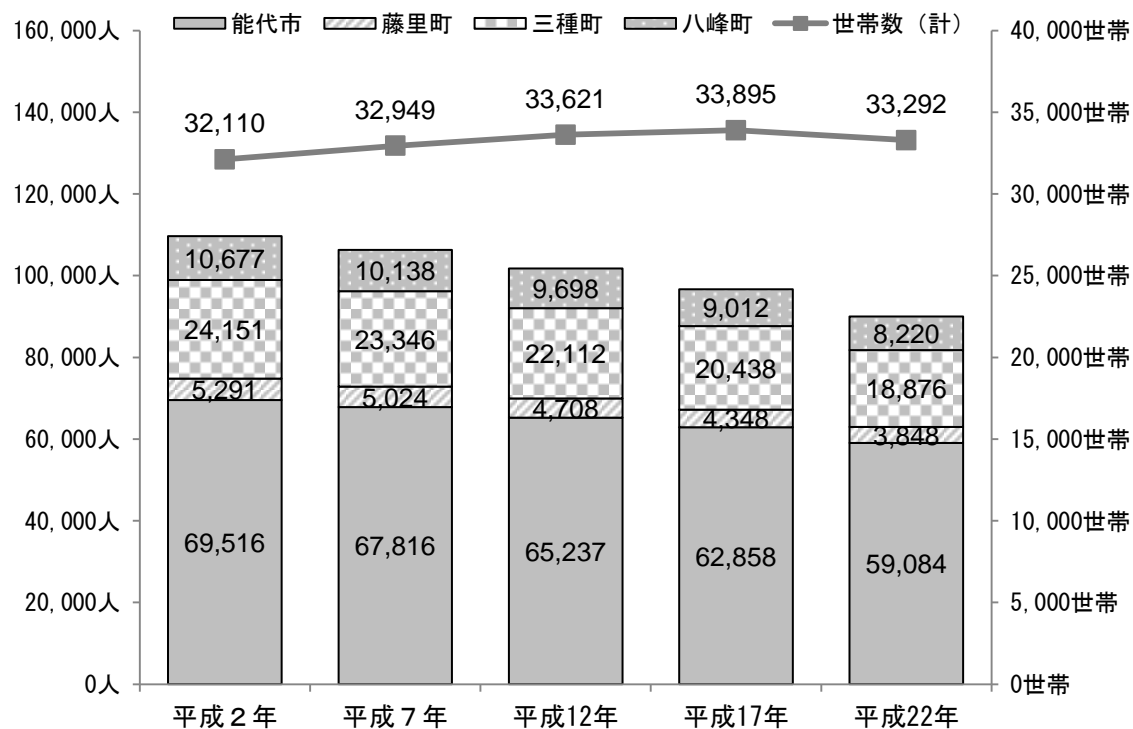
※就業者数及び通学者数は、自宅において従業する者の数を控除して得た数値。

人口の推移は、圏域の4市町すべてで人口減少が続いており、平成2年国勢調査の 109,635 人と比べて約 18%減少しています。

年齢3区分別の人口構成比については、圏域を構成する4市町すべてで 65 歳以上の高齢者人口の割合が増加しています。圏域全体の高齢者人口の割合は、平成2年国勢調査で 17.6%であったものが、平成 22 年には 33.7%となっており高齢化率が上昇しています。

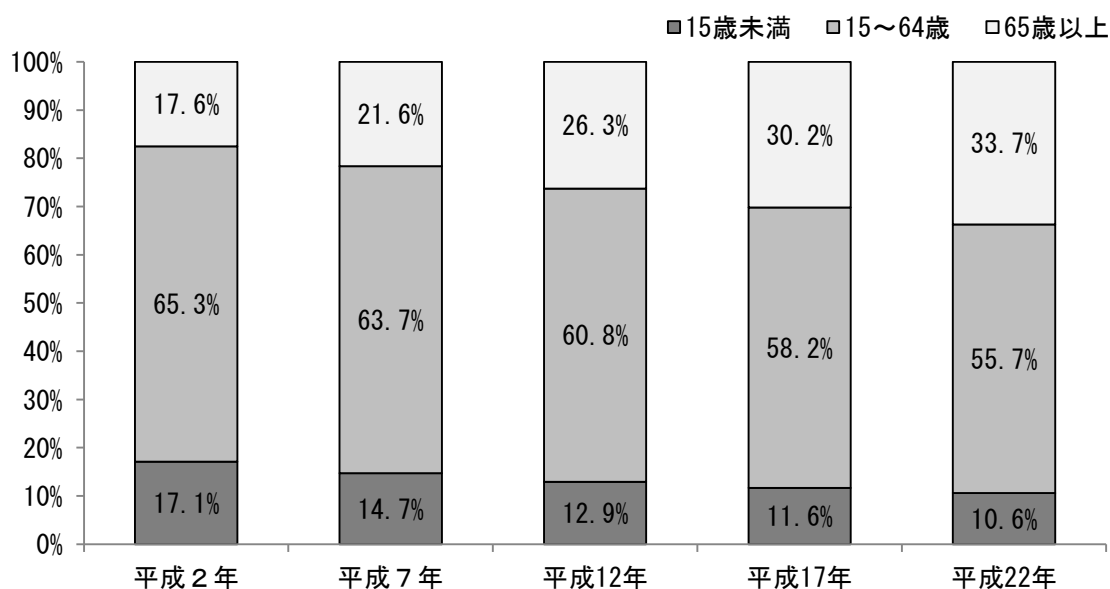
自然動態は、死亡数が出生数を上回る状況が続いており、その差は広がる傾向にあります。社会動態についても、転出超過で推移しており、社会減の状況が現在まで続いています。

グラフ 国勢調査による人口と世帯数の推移



資料：国勢調査

グラフ 年齢3区分別人口構成比の推移（4市町合計）



資料：国勢調査

表 人口動態の推移（前年10月～当該年9月の人口動態）（単位：人）

区 分		平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	
能代市	自然 動態	出生	293	307	292	265	227
		死亡	849	878	885	978	878
		増減	△556	△571	△593	△713	△651
	社会 動態	転入	1,421	1,357	1,252	1,274	1,226
		転出	1,544	1,570	1,597	1,560	1,454
		増減	△123	△213	△345	△286	△228
	増 減		△679	△784	△938	△999	△879
藤里町	自然 動態	出生	15	16	15	13	15
		死亡	63	68	81	74	84
		増減	△48	△52	△66	△61	△69
	社会 動態	転入	80	60	45	53	65
		転出	88	71	91	109	91
		増減	△8	△11	△46	△56	△26
	増 減		△56	△63	△112	△117	△95
三種町	自然 動態	出生	84	75	84	72	62
		死亡	335	288	319	338	320
		増減	△251	△213	△235	△266	△258
	社会 動態	転入	350	260	328	256	309
		転出	435	395	444	419	413
		増減	△85	△135	△116	△163	△104
	増 減		△336	△348	△351	△429	△362
八峰町	自然 動態	出生	29	31	26	23	19
		死亡	137	137	135	142	143
		増減	△108	△106	△109	△119	△124
	社会 動態	転入	172	125	136	108	118
		転出	225	197	179	208	213
		増減	△53	△72	△43	△100	△95
	増 減		△161	△178	△152	△219	△219
合 計	自然 動態	出生	421	429	417	373	323
		死亡	1,384	1,371	1,420	1,532	1,425
		増減	△963	△942	△1,003	△1,159	△1,102
	社会 動態	転入	2,023	1,802	1,761	1,691	1,718
		転出	2,292	2,233	2,311	2,296	2,171
		増減	△269	△431	△550	△605	△453
	増 減		△1,232	△1,373	△1,553	△1,764	△1,555

資料：秋田県の人口と人口動態

国立社会保障・人口問題研究所が平成 25 年 3 月に公表した「日本の地域別将来推計人口」によると、日本の総人口は長期にわたって減少が続き、平成 52 年には、約 7 割の自治体で平成 22 年に比べ 2 割以上減少するとされています。

圏域全体の推計人口は、平成 22 年の 90,028 人と比べ、平成 37 年には、約 23%減の 69,428 人、平成 52 年には、44%減の 50,744 人にまで減少するとされています。

表 将来推計人口

(単位：人)

	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年	平成 42 年	平成 47 年	平成 52 年
能代市	54,916	50,754	46,519	42,378	38,455	34,739
藤里町	3,527	3,122	2,745	2,402	2,096	1,820
三種町	17,238	15,680	14,139	12,678	11,309	10,006
八峰町	7,454	6,735	6,025	5,371	4,760	4,179
合 計	83,135	76,291	69,428	62,829	56,620	50,744

資料：平成 25 年 3 月 国立社会保障・人口問題研究所

(4) 土地利用

圏域の面積の約 70%が森林となっており、次いで農地が約 14%となっています。宅地は全体の2%ほどであり、その6割以上が能代市にあります。

表 利用区分別土地利用現況（平成25年10月1日現在）（単位：ha）

利用区分	能代市	藤里町	三種町	八峰町	計
農地	7,600	999	5,880	2,120	16,599
森林	25,382	25,177	13,522	18,754	82,835
原野等	156	523	282	429	1,389
水面・河川・水路	1,629	833	908	291	3,661
道路	1,563	387	1,032	391	3,373
宅地	1,816	138	682	315	2,951
その他（参考面積）	4,313	137	2,458	779	7,688
総面積	42,674	28,198	24,809	23,420	119,101

資料：秋田県の土地利用

※端数処理の関係から、市町別面積の合計と「計」が一致しない場合がある。

(5) 医療・福祉

圏域には、病院が7施設、診療所が有床・無床を合わせて77施設、歯科診療所が31施設あり、その多くが能代市に所在しています。

中核の医療機関は、能代市に所在する能代厚生医療センター、JCHO秋田病院、能代山本医師会病院となっており、この3病院の輪番制により、二次救急医療体制をとっています。

また、休日医療では、圏域内の病院・診療所が交代で診療にあたる在宅当番医制を運用し、初期救急に対応しています。

福祉施設についても、その多くが能代市に所在しています。

表 圏域内の病院及び診療所（平成27年3月31日現在）

	病院		一般診療所			歯科診療所
	施設数	病床数	有床施設数	病床数	無床施設数	
能代市	6	1,228	11	177	45	24
藤里町	—	—	—	—	2	1
三種町	1	152	—	—	13	4
八峰町	—	—	—	—	6	2
合計	7	1,380	11	177	66	31

資料：山本地域振興局福祉環境部

表 二次救急医療機関の利用状況（平成26年度）（単位：人）

	能代厚生医療センター		JCHO秋田病院		能代山本医師会病院	
	外来	入院	外来	入院	外来	入院
能代市	123,463	74,976	63,772	33,310	14,828	28,437
藤里町	9,266	5,582	3,296	2,067	1,055	2,614
三種町	38,184	24,445	11,953	6,186	5,220	10,951
八峰町	24,599	16,103	5,973	3,585	1,461	3,214
その他	22,689	17,705	6,181	3,721	4,496	9,262
合計	218,201	138,811	91,175	48,869	27,060	54,478

資料：各病院

表 救急医療の状況（平成26年度 在宅当番医制）

区分	当番（日）	医療機関（機関）	患者（人）
休日当番	69	41	534
小児科休日当番	52	4	2,897

資料：能代山本広域市町村圏組合

表 救急医療の状況（平成26年度 病院群輪番制病院運営事業）

	患者（人）		
	入院	外来	計
能代市	754	3,783	4,537
藤里町	56	198	254
三種町	248	1,158	1,406
八峰町	110	574	684
その他	176	605	781
合計	1,344	6,318	7,662

資料：能代山本広域市町村圏組合

表 救急出動状況（平成26年度）

	出場（件）				
	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
能代市	1,403	136	243	400	2,182
藤里町	134	9	32	13	188
三種町	489	35	75	70	669
八峰町	211	13	31	24	279
合計	2,237	193	381	507	3,318

資料：能代山本広域市町村圏組合

表 福祉関係施設等の状況（平成27年4月1日現在）

施設種別	能代市	藤里町	三種町	八峰町	計
保育所・幼稚園・認定こども園	18	2	7	3	30
子育て支援センター・つどいの広場	3	1	3	-	7
ファミリーサポートセンター	1	-	-	-	1
児童館	1	-	4	-	5
老人福祉施設	69	7	36	14	126
障がい者福祉施設・サービス事業等	46	20	15	9	90
助産施設	1	-	-	-	1
母子生活支援施設	1	-	-	-	1

資料：秋田県教育庁幼保推進課、山本地域振興局福祉環境部

(6) 教育・文化

圏域内の高等学校は、能代市に立地する県立の5校となっており、在籍者の9割近くが圏域からの通学者となっています。また、能代市には、県立の特別支援学校や民間の専修学校が立地しています。

文化関連施設及びスポーツ関連施設は、各市町で整備されています。

表 学校の立地状況（平成27年度）

学校種別	能代市	藤里町	三種町	八峰町	計
幼稚園（幼保連携型認定こども園含む）	6	1	1	-	8
小学校	12	1	6	3	22
中学校	7	1	3	2	13
高等学校	5	-	-	-	5
特別支援学校	1	-	-	-	1
専修学校	3	-	-	-	3

資料：平成27年度学校基本調査

表 高等学校等の在籍者の状況（平成27年度）

（単位：人）

学校種別	能代市	藤里町	三種町	八峰町	その他	計
高等学校（5校）	1,323	60	325	203	280	2,191
特別支援学校	58	4	13	5	11	91
専修学校	40	1	7	2	70	120

※高等学校の地域別内訳は、出身中学校別生徒数。

資料：各校学校要覧等

表 文化・スポーツ関連施設の立地状況（平成27年度）

施設種別	能代市	藤里町	三種町	八峰町	計
文化関連施設	12	9	5	4	30
スポーツ関連施設	20	7	12	7	46

資料：各市町資料

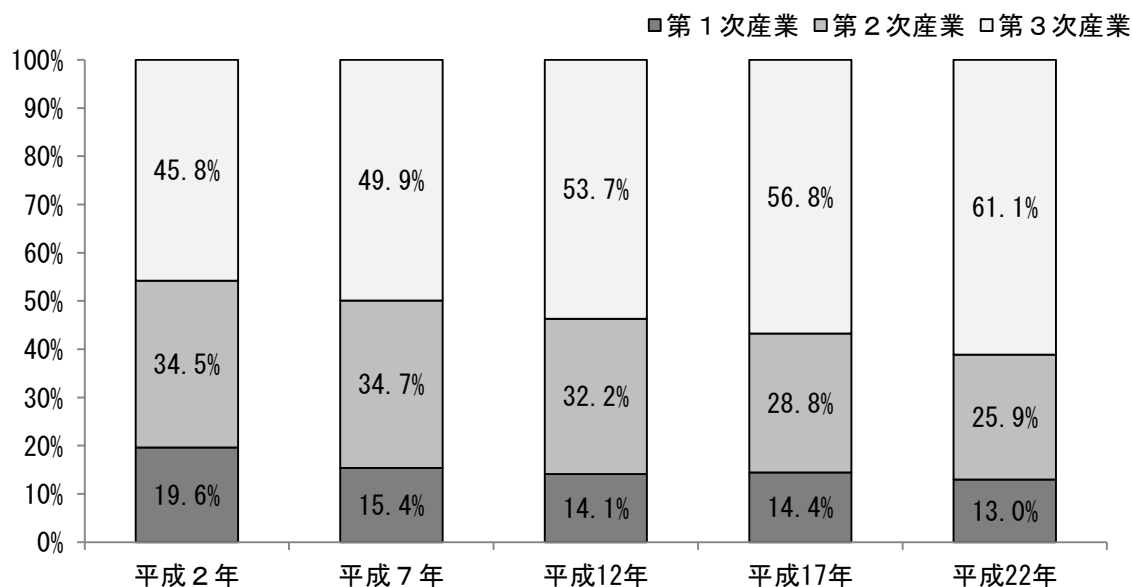
（7）産業・雇用

産業別就業者数は、サービス業等の第3次産業が増加傾向にあり、平成22年国勢調査では、圏域全体で6割以上を占めています。その一方で、第1次産業と第2次産業については、平成2年に合わせて5割以上だったものが、それぞれ減少を続け、平成22年には4割を下回っています。

事業所・企業統計（平成21年からは経済センサス）によると、圏域の事業所数及び従業者数はともに減少しています。また、圏域全体の事業所数のうち、能代市の占める割合は、7割以上となっています。

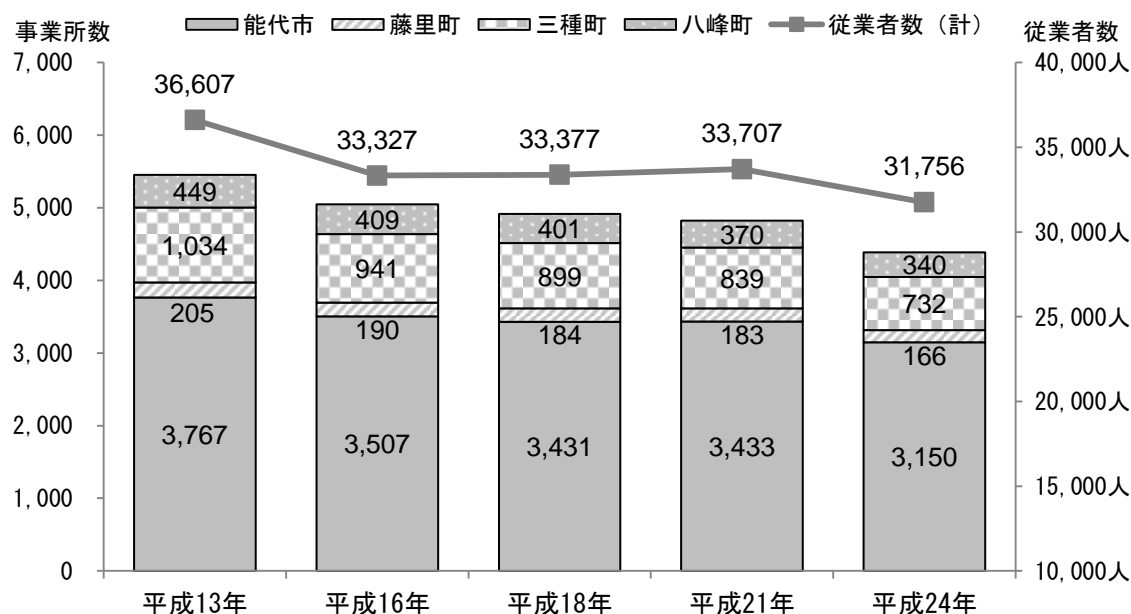
製造業の製造品出荷額は、平成21年に比べ、平成25年が2割近く減少しています。また、卸売業・小売業の年間商品販売額についても、減少してきています。

グラフ 産業別就業者割合の推移



資料：国勢調査

グラフ 事業所数・従業者数の推移



資料：事業所・企業統計、経済センサス

※事業所・企業統計調査と経済センサスとの調査手法の違いにより、平成18年と平成21年との差数がすべて増加・減少を示すものではない。

表 製造業（従業者4人以上）の事業所数・従業者数及び製造品出荷額の推移

		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
能代市	事業所数	151	147	149	133	134
	従業者数 (人)	3,552	3,518	3,300	3,115	2,981
	製造品出荷額 (万円)	9,462,974	8,545,704	7,251,375	7,557,010	7,532,999
藤里町	事業所数	14	14	13	11	8
	従業者数 (人)	148	152	154	140	69
	製造品出荷額 (万円)	63,368	73,276	63,942	68,731	41,672
三種町	事業所数	34	32	33	30	28
	従業者数 (人)	862	826	737	730	694
	製造品出荷額 (万円)	757,035	787,184	702,424	746,144	806,877
八峰町	事業所数	20	18	21	18	17
	従業者数 (人)	384	401	486	397	342
	製造品出荷額 (万円)	214,780	245,727	310,512	307,179	307,811
合計	事業所数	219	211	216	192	187
	従業者数 (人)	4,946	4,897	4,677	4,382	4,086
	製造品出荷額 (万円)	10,498,157	9,651,891	8,328,253	8,679,064	8,689,359

資料：工業統計調査

表 卸売業・小売業の事業所数・従業者数及び年間商品販売額の推移

		平成11年	平成14年	平成16年	平成19年	平成26年
能代市	事業所数	1,236	1,078	1,053	942	661
	従業者数(人)	6,540	6,061	5,847	5,672	4,164
	年間商品販売額(百万円)	211,973	127,537	130,125	122,581	97,750
藤里町	事業所数	60	54	56	48	29
	従業者数(人)	163	142	144	166	100
	年間商品販売額(百万円)	2,380	1,724	1,811	1,921	1,359
三種町	事業所数	309	266	259	225	138
	従業者数(人)	1,030	1,003	983	986	710
	年間商品販売額(百万円)	15,346	14,165	12,490	13,120	12,908
八峰町	事業所数	134	123	110	102	74
	従業者数(人)	408	504	411	368	365
	年間商品販売額(百万円)	6,722	8,529	4,661	5,150	6,346
合計	事業所数	1,739	1,521	1,478	1,317	902
	従業者数(人)	8,141	7,710	7,385	7,192	5,339
	年間商品販売額(百万円)	236,421	151,955	149,087	142,772	118,363

資料：商業統計調査

※平成26年調査は、日本標準産業分類の第12回改定及び調査設計の大幅変更を行ったことに伴い、前回実施の平成19年調査の数値とは接続しない。

平成26年の圏域の観光客数は、2,231,634人となっています。平成23年は、東日本大震災の影響により大きく落ち込んだものと考えられます。

圏域は、世界自然遺産に登録された白神山地をはじめ、米代川や日本海などの豊かな自然に恵まれているほか、歴史文化やイベント、温泉、特産品など、多くの魅力的な観光資源があります。

表 観光地点等入込客数の推移(延べ人数) (単位：人)

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
能代市	1,298,758	1,628,645	1,637,107	1,667,174
藤里町	86,386	87,097	14,885	71,635
三種町	172,806	185,401	194,167	173,682
八峰町	389,630	362,872	319,636	319,143
合計	1,947,580	2,264,015	2,165,795	2,231,634

資料：秋田県観光統計

表 主な地域資源

区 分	能代市	藤里町	三種町	八峰町
自然景勝地	<ul style="list-style-type: none"> ・風の松原 ・きみまち阪 ・七座山 ・ふたつい白神郷土の森 ・仁鮎水沢スギ植物群落保護林 ・小友沼 	<ul style="list-style-type: none"> ・岳岱自然観察教育林 ・小岳 ・藤里駒ヶ岳 ・大野岱放牧場 ・釣瓶落峠 ・峨瀧の滝 	<ul style="list-style-type: none"> ・釜谷浜 ・房住山 ・石倉山 ・扇滝 ・羽根川ダム 	<ul style="list-style-type: none"> ・八森岩館海岸 ・真瀬溪谷（三十釜） ・留山 ・ブナの森 ・白神山地ニッ森登山口
歴史文化	<ul style="list-style-type: none"> ・多宝院 ・旧料亭金勇 	<ul style="list-style-type: none"> ・白神山地世界遺産センター（藤里館） ・ふるさと自然公園センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・大山家住宅 ・琴丘歴史民俗資料館 ・山本ふるさと文化館 ・房住山三十三観音 ・森岳歌舞伎 ・土笛 	<ul style="list-style-type: none"> ・白瀑神社 ・松源院 ・三十三番観音 ・手這坂
公園・レクリエーション施設	<ul style="list-style-type: none"> ・能代公園 ・毘沙門憩の森 ・能代河畔公園 	<ul style="list-style-type: none"> ・清水岱公園 ・素波里国民休養地 	<ul style="list-style-type: none"> ・羽根川森林公園 ・サンサンパークコテージ村 ・三倉鼻公園 ・石倉山公園 ・惣三郎沼公園 ・釜谷浜海水浴場 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポンポコ山公園 ・御所の台ふれあいパーク ・中央公園 ・ぶなっこランド
祭り・イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・おなごりフェスティバル ・きみまちの里フェスティバル ・港まつり能代の花火 ・能代ねぶながし ・能代七夕「天空の不夜城」 	<ul style="list-style-type: none"> ・浅間神社祭典 ・素波里紅葉まつり ・根城相撲 ・歩行者天国ふるさとまつり ・高山温泉まつり ・白神ぶなの森マラソン ・藤里ジュニアスキー大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンドクラフト ・森岳温泉夏祭り 	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり ・ラベンダーまつり ・みこしの滝浴び ・あわびの里づくり祭り ・石川駒踊り ・雄島花火大会 ・ポンポコ山音楽祭 ・はっぼう“んめもの”まつり
温泉	<ul style="list-style-type: none"> ・能代温泉 	<ul style="list-style-type: none"> ・湯の沢温泉 	<ul style="list-style-type: none"> ・森岳温泉 ・砂丘温泉 	<ul style="list-style-type: none"> ・いさりび温泉 ・湯っこランド ・あきた白神温泉
特産品	<ul style="list-style-type: none"> ・白神ネギ ・白神ウド ・檜山納豆 ・豚なんこつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・白神ホゲット ・白神ラム ・白神りんどう ・白神山地まいたけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・じゅんさい ・メロン ・梅 ・そらまめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・鱒ほか魚介類 ・鱒ずし ・白神アワビ ・石川ソバ ・峰浜梨 ・菌床シイタケ ・八峰白神の塩・塩もろみ
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「ふたつい」 ・ねぎっこ村 ・みょうが館 ・きみまち杉ちよくん 	<ul style="list-style-type: none"> ・白神街道 ふじさと ・白神山地 森のえき 	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「ことおか」 ・橋本五郎文庫 ・グリーンびあ ・ドラゴンフレッシュセンター ・じゅんさいの館 ・メロディアン 	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「みねはま」 ・道の駅「はちもり」 ・はちもり観光市 ・八峰白神ジオパーク

圏域の能代山本地域を管轄する能代公共職業安定所管内の求人倍率は、年々上昇しており、平成 26 年度の有効求人倍率は 0.91 となっています。

また、新規高卒者の就職状況については、就職希望率及び就職決定率ともに、県内の就職が5割以上で推移しています。

表 一般職業の求人・求職状況（能代公共職業安定所管内）

		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
求職者数（人）	新規	6,379	6,241	5,575	5,171	4,962
	有効	25,534	24,693	21,970	19,836	18,601
求人数（人）	新規	4,873	6,019	6,556	6,895	6,457
	有効	11,372	14,187	16,757	17,669	16,847
求人倍率	新規	0.76	0.96	1.18	1.33	1.30
	有効	0.45	0.57	0.76	0.89	0.91

資料：秋田労働局統計情報

表 新規高卒者の求職・就職決定状況（能代公共職業安定所管内）

	23.3 卒	24.3 卒	25.3 卒	26.3 卒	27.3 卒
求職数（人）	270	225	248	242	224
県内就職希望率（％）	52.6	54.2	62.1	50.8	50.4
県外就職希望率（％）	47.4	45.8	37.9	49.2	49.6
就職決定数（人）	266	225	248	241	224
就職決定率（％）	98.5	100.0	100.0	99.6	100.0
県内就職率（％）	51.9	54.2	62.1	50.6	50.4
県外就職率（％）	48.1	45.8	37.9	49.4	49.6

資料：秋田労働局統計情報

(8) 公共交通

圏域の幹線道路は、国道7号と101号により骨格を形成しています。また、高規格幹線道路として秋田自動車道が二ツ井白神ICまで開通しており、現在、二ツ井・大館間が整備中となっています。

路線バスは、能代バスステーションを中心として各地域へ放射状に伸びる路線を形成しているほか、各地域では、コミュニティバスやデマンド型乗合タクシーが運行されています。

鉄道については、南部から東部にかけてJR奥羽本線が、能代市から沿岸北部にかけてJR五能線が運行されており、地域の重要な交通手段となっています。

図 路線バス能代エリア路線マップ（能代市・旧二ツ井町・山本地区）

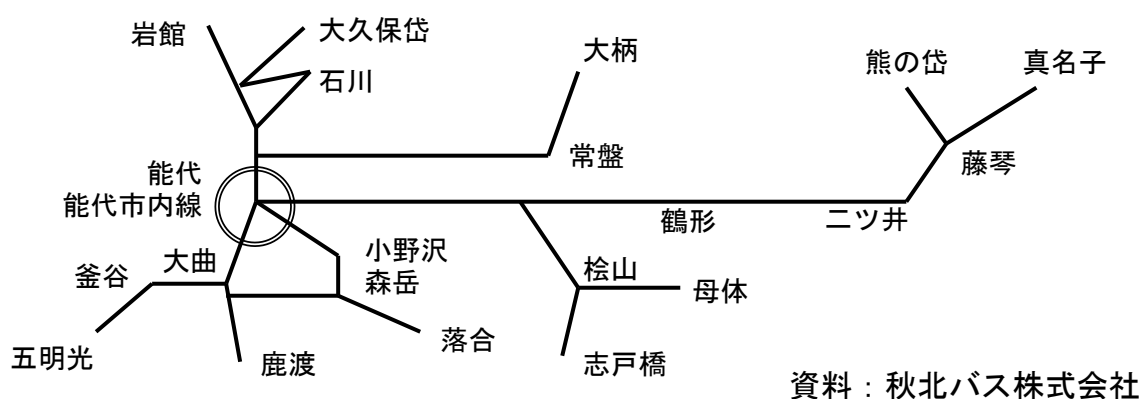


表 路線バスの輸送人員の推移

区分	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
路線数	28	29	26	26	26
輸送人員(人)	378,405	381,362	362,189	340,709	332,858

資料：秋北バス株式会社（能代営業所管内分）

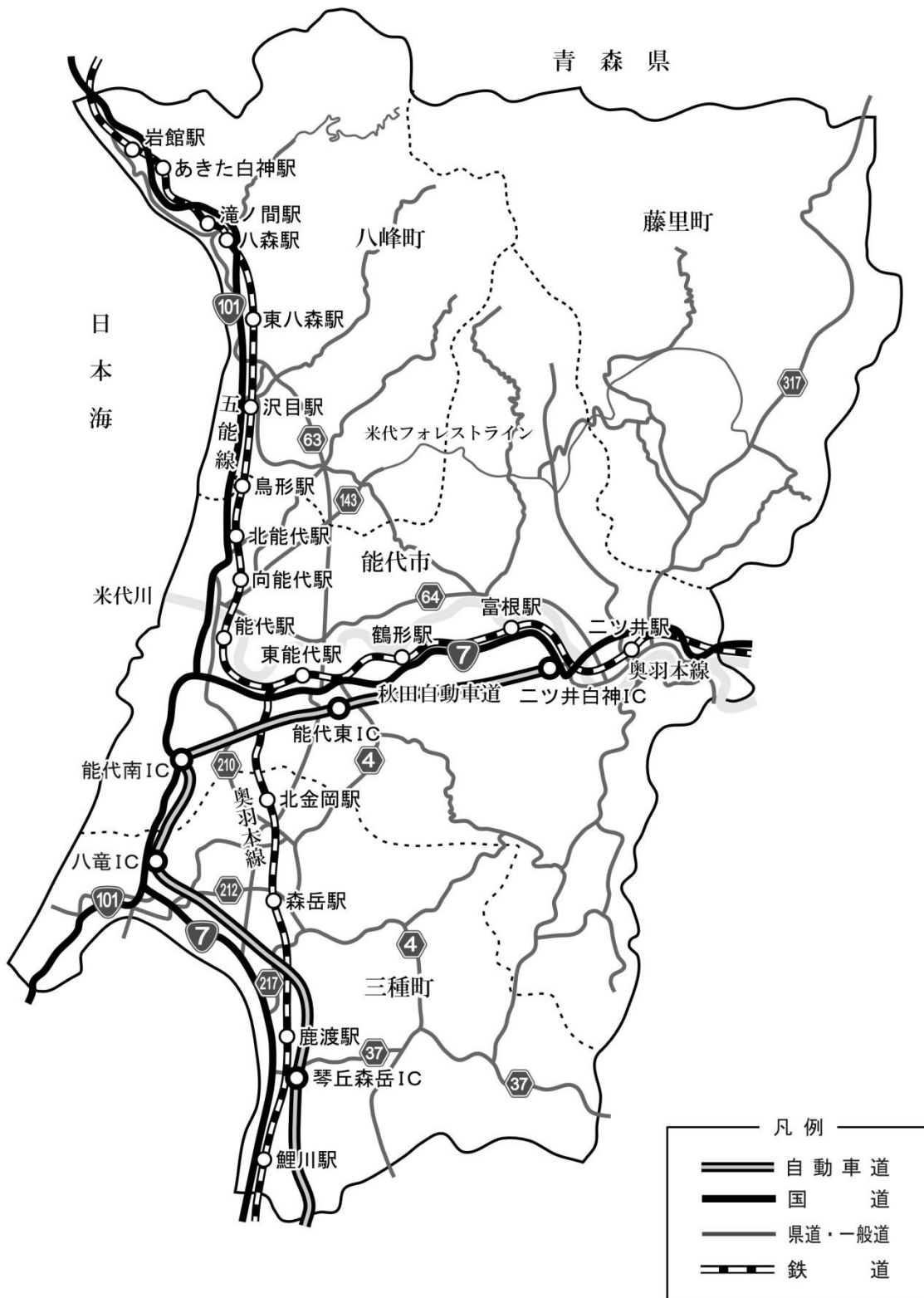
表 圏域内の駅の1日平均乗車人員

（単位：人）

駅名	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
二ツ井駅	475	455	423	403	391
東能代駅	555	508	524	536	521
森岳駅	259	258	245	244	219
鹿渡駅	201	187	189	180	156
能代駅	700	664	601	569	510
向能代駅	41	51	57	61	43
あきた白神駅	30	17	27	26	29
岩館駅	46	38	27	33	30

資料：JR東日本ホームページ

図 圏域内の主な道路・鉄道



3. 圏域の将来像

(1) 圏域の将来像

能代山本地域は、古くから結びつきが強く、通勤、通学、通院、買い物などで一体の生活圏を形成しています。

これまでに、消防・救急、ごみ処理、し尿処理等の事務については、能代山本広域市町村圏組合を設置して共同処理するなど、効率的な行政運営を行ってきました。

現在、日本は、人口減少時代に突入しており、地方にあっては、大都市への若年層の流出と、出生率の低下があいまって、急速に人口減少が進行しています。

こうしたなか、今後もそれぞれの地域が発展を続けていくためには、市町単独での事業展開だけではなく、各地域の魅力や特性を活かしながらも、今まで以上に連携・協力し、地域全体での定住につながる取組を進める必要があります。

能代山本地域においては、これまで培ってきた連携や協力関係をさらに強め、人口定住のために必要な都市機能及び生活機能を確保するとともに、地域の活性化を図ることにより、圏域住民が将来にわたり安心して暮らすことができる魅力あふれる圏域を目指します。

【将来の人口及び高齢化率の目標】

	平成 22 年 国勢調査	平成 27 年 国勢調査	平成 37 年 (目標)	平成 52 年 (目標)
圏域人口 (人)	90,028	82,476	71,543	54,859
高齢化率 (%)	33.6	38.8	42.3	42.5

※目標は各市町の人口ビジョンを基に算出。

(2) 将来像の実現に向けて

圏域の各市町は、将来像の実現に向け、継続的に情報交換及び情報共有を行い、取組を進めることとします。

取組を進めるにあたっては、各市町における個別の取組を尊重しながらも、連携することにより効果が高まる取組、効率的に実施できる取組などについては、連携・協力して取り組むこととします。

具体的な取組は、「生活機能の強化」「結びつきやネットワークの強化」「圏域マネジメント能力の強化」の3つの視点に立ち、医療、福祉、産業振興、地域公共交通などの分野ごとに定め、推進します。

4. 推進する具体的な取組

協定項目及び具体的な事業の一覧

政策分野	協定項目	具体的な事業
(1) 生活機能の強化に係る政策分野		
①医療	ア 地域医療体制の充実・強化	救急医療等支援事業
	イ 医療従事者の確保対策	産科医等確保支援事業
	ウ 健康寿命の延伸対策	健康づくり推進事業 がん対策事業
②福祉	ア 子育て支援の充実	福祉医療事業 母子保健事業 病児保育事業
	イ 高齢者福祉の充実	緊急通報システム事業 生活管理指導短期宿泊事業
③教育	ア 学校教育の充実	ふるさと人材育成・定住促進奨学金貸付事業
	イ 生涯学習機会の充実	文化会館・図書館管理運営事業 生涯学習推進事業
④産業振興	ア 広域観光の推進	広域観光推進事業
	イ 地域資源を活用した経済の活性化	グリーン・ツーリズム推進事業
		スポーツ文化合宿誘致事業
		地域活性化イベント支援事業 特産品販路拡大事業
	ウ 企業誘致等による雇用機会の確保	企業誘致活動 地域雇用対策事業
	エ 農林水産業の担い手育成	就農支援事業 農業人材育成事業
(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野		
①地域公共交通	ア 地域公共交通の維持確保及び利用促進	生活バス路線等維持対策事業
		路線バス等利用促進事業
		大館能代空港利用促進事業
②道路等の交通インフラの整備	ア 道路等の維持管理の連携	道路等の維持管理
③地域内外の住民との交流・移住促進	ア 移住定住の促進	空き家活用事業
		移住定住促進事業 移住支援金
	イ 婚活支援事業の充実	出会い創出事業 あきた結婚支援センター会員登録助成事業
		ウ 情報発信の強化
④その他	ア 松枯れ被害の対策	松くい虫対策事業
(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野		
①圏域内市町の職員等の交流	ア 圏域市町職員の交流・合同研修	広域連携職員研修

(1) 生活機能の強化に係る政策分野

① 医療

【基本目標】

病院群輪番制病院及び在宅当番医制の維持

ア 地域医療体制の充実・強化

【形成協定】

圏域住民に安定した医療を提供するため、医療機関への支援等を通じて二次医療圏域である能代山本圏域の医療体制の充実・強化を図る。

【具体的な事業】

事業名	関係市町					
	能代市・藤里町・三種町・八峰町					
事業内容	二次医療圏の救急医療、小児医療体制を確保し、圏域住民に安定的な医療を提供するため、能代厚生医療センターの運営を支援する。					
効果	経営状況の改善と医師等の従事者数を確保することにより、圏域住民に対し、安定的に医療が実施される。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	80,000	80,000	67,172	68,415	68,415	364,002
特定財源	公的病院等への助成に関する特別交付税措置					
役割分担	各市町がそれぞれの負担割合で補助金を交付する。					

【重要業績評価指標KPI】

医療施設数（病院） 7施設（平成27年） → 7施設

イ 医療従事者の確保対策

【形成協定】

圏域住民に安定した医療を提供するため、圏域の医療従事者の確保対策に取り組む。

【具体的な事業】

事業名	産科医等確保支援事業						関係市町
							能代市
事業内容	地域で安心して出産できる体制を維持するため、圏域で唯一分娩を取り扱う能代厚生医療センターの産科医等に支給する分娩手当の補助を行う。						
効果	地域の出産を支える産科医等の処遇改善により、減少している分娩取扱医療機関の維持及び産科医等の確保を図ることができる。						
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計	
	3,900	3,900	3,900	3,900	3,900	19,500	
特定財源	産科医等確保支援事業費補助金						
役割分担	能代市が事業を実施し、費用を負担する。						

【重要業績評価指標KPI】

医師数（病院） 106人（平成27年） → 106人

ウ 健康寿命の延伸対策

【形成協定】

圏域住民の健康寿命の延伸を図るため、予防・健（検）診・保健指導等に取り組むとともに、地域資源を活用した健康づくりを推進する。

【具体的な事業】

事業名	健康づくり推進事業		関係市町			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	圏域住民の健康意識を高め、健康づくりを推進するため、生活習慣病予防等のための健康診査や保健指導等を実施する。					
効果	生活習慣病予防等の健康づくりを推進することにより、圏域住民の健康意識を高めることができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	100,107	100,107	100,107	100,107	100,107	500,535
特定財源	健康増進事業費補助金					
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。					

事業名	がん対策事業		関係市町			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	がんによる死亡者を少しでも減らしていくため、がん検診をはじめとするがん対策に取り組む。					
効果	がんの予防対策に取り組むことにより、圏域住民の健康寿命の延伸を図ることができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	139,915	139,915	139,915	139,915	139,915	699,575
特定財源	がん検診受診率向上支援事業費補助金、胃がん検診助成事業費補助金、疾病予防対策事業費等補助金、健康増進事業費補助金、がん検診総合支援事業補助金、新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業費補助金、保健センター使用料、検診料納付金、がん検診手数料					
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。					

【重要業績評価指標KPI】

悪性新生物死亡率（人口10万対） 500.6（平成26年） → 450.0

② 福祉

【基本目標】

合計特殊出生率 1.36（平成 27 年） → 1.60

ア 子育て支援の充実

【形成協定】

圏域全体として安心して子育てができる環境を整備するため、圏域での子育て支援サービスの相互利用や、子育て世帯への助成等を行う。

【具体的な事業】

事業名	福祉医療事業						関係市町	
							能代市・藤里町・三種町・八峰町	
事業内容	子育て世帯の経済的負担を軽減し、子どもの心身の健康保持と生活の安定を図るため、医療費の自己負担分を助成する。							
効果	子どもの医療費負担を軽減し、圏域の子育て世代が安心して生活できる環境とすることで、定住を促進することができる。							
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計		
	196,474	200,974	200,974	162,486	162,486	923,394		
特定財源	福祉医療費補助金							
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。							

事業名	母子保健事業						関係市町	
							能代市・藤里町・三種町・八峰町	
事業内容	保健指導や家庭訪問等により、妊婦の出産に対する不安や乳幼児を持つ親が抱える不安を軽減し、圏域で安心して子育てができるよう支援する。							
効果	出産や子育てに対する不安を軽減し、圏域で安心して子育てができる環境を整えることができる。							
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計		
	48,247	48,213	48,113	48,013	47,913	240,499		
特定財源	子ども・子育て支援交付金、市町村子ども・子育て支援事業費補助金、母体健康増進支援事業費補助金							
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。							

事業名	病児保育事業		関係市町			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	病気の回復期にある児童等を保護者が仕事等で世話できない場合に、一時的に医療機関で預かる事業に取り組む。					
効果	病児保育施設の維持・確保を図ることで、圏域で安心して働くことができる環境を整えることができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	15,839	15,839	15,839	20,780	20,780	89,077
特定財源	子ども・子育て支援交付金、地域子ども・子育て支援事業費補助金					
役割分担	各市町がそれぞれの負担割合で費用を負担する。					

【重要業績評価指標KPI】

出生数 369人（平成27年） → 370人

イ 高齢者福祉の充実

【形成協定】

高齢者福祉の充実を図るため、圏域高齢者の生活支援や、ひとり暮らしの安全確保対策を行う。

【具体的な事業】

事業名	緊急通報システム事業		関係市町			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	ひとり暮らし高齢者等の安全を確保するため、緊急通報装置を貸与し、急病や事故等に適切な対応を図る。					
効果	緊急時の連絡手段を確保し、高齢者が安心して暮らせる環境を整備することができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	9,426	9,316	9,316	9,316	9,316	46,690
特定財源						
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。					

事業名	生活管理指導短期宿泊事業		関係市町			
			能代市・三種町・八峰町			
事業内容	虚弱高齢者等を短期間宿泊させ、生活習慣等の指導と体調の調整を図る。					
効果	虚弱高齢者やひとり暮らし高齢者を養護することで、高齢者の生活を支援することができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	741	741	741	741	741	3,705
特定財源	地域支援事業交付金					
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。					

【重要業績評価指標KPI】

要介護（要支援）認定者数 6,978人（平成27年） → 7,000人

③ 教育

【基本目標】

文化会館及び図書館の維持

ア 学校教育の充実

【形成協定】

圏域の人材を育成し、地元への定住を促進するための奨学金の貸与等を行う。

【具体的な事業】

事業名	ふるさと人材育成・定住促進		関係市町			
	奨学金貸付事業		能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	能代山本地域の定住を促進するため、要件を満たす学生に償還金の免除措置がある入学一時金を貸与する。					
効果	償還時に能代山本地域に居住の場合、償還金を免除する入学一時金を貸与することにより、圏域での人材を育成し、定住を促進することができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	38,642	38,642	38,642	30,000	30,000	175,926
特定財源	ふるさと人材育成・定住促進奨学基金					
役割分担	火力協力金を活用し、能代市が事業を実施する。 各市町において制度の周知を図る。					

【重要業績評価指標KPI】

圏域内居住による奨学金の返還支援件数 16件（平成27年） → 40件

イ 生涯学習機会の充実

【形成協定】

圏域での生涯学習の機会を充実させるため、関連施設の維持管理を行うとともに、各種講座を開催する。

【具体的な事業】

事業名	文化会館・図書館管理運営事業					関係市町
						能代市
事業内容	圏域住民に対する文化活動の場や図書館サービスを提供するため、能代市文化会館や市立図書館の管理運営を行う。					
効果	文化会館や図書館の適切な管理運営を行うことで、圏域内の文化活動や生涯学習活動を活性化させることができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	126,344	126,344	126,344	126,344	126,344	631,720
特定財源						
役割分担	能代市が事業を実施し、費用を負担する。					

事業名	生涯学習推進事業					関係市町
						能代市・藤里町・三種町・八峰町
事業内容	圏域住民が参加できる講座やイベントを増やし、生涯学習の機会を充実させる。					
効果	各地域の特色ある講座やイベントへの参加機会を増やすことで、圏域住民の生涯学習と交流を活性化することができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	6,937	6,937	6,937	6,937	6,937	34,685
特定財源						
役割分担	各市町がそれぞれ事業を実施し、費用を負担する。					

【重要業績評価指標KPI】

文化会館利用者数 104,525人(平成27年) → 105,000人

図書館利用者数 114,806人(平成27年) → 115,000人

④ 産業振興

【基本目標】

事業所数（民営） 4,238 箇所（平成 26 年） → 4,200 箇所
 従業者数（民営） 31,125 人（平成 26 年） → 31,000 人

ア 広域観光の推進

【形成協定】

圏域の魅力ある観光資源を全国に発信し、誘客につなげるため、能代山本地域が連携し、より広域的な観光を推進する。

【具体的な事業】

事業名	広域観光推進事業		事業名			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	秋田県山本地域振興局と圏域市町が共同で能代山本地域の観光を推進する「あきた白神広域観光推進会議」の取組を進めるとともに、民間事業者等も含めた「あきた白神観光連絡調整協議会」において、地域連携DMOと戦略等の合意形成を図り、観光誘客による地域活性化に向けた取組を進める。					
効果	県と市町、民間事業者等が一体となって業務を行うことで、効率的に圏域の魅力ある観光資源を全国に発信し、誘客につなげることができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	2,400	18,398	26,400	39,003	39,003	125,204
特定財源	東北観光復興対策交付金					
役割分担	各市町があきた白神広域観光推進会議及びあきた白神観光連絡調整協議会に参画するほか、DMOに対してそれぞれの負担割合で費用を負担する。					

【重要業績評価指標KPI】

延べ宿泊者数 182,925 人（平成 29 年） → 186,000 人

イ 地域資源を活用した経済の活性化

【形成協定】

圏域経済の活性化を図るため、自然環境、歴史、文化、スポーツ、温泉、伝統芸能等の地域資源の有効活用や、特産品の販路拡大に取り組む。

【具体的な事業】

事業名	グリーン・ツーリズム推進事業		関係市町			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	圏域の豊かな自然や農村の環境を活かし、農家民泊を含めた体験型の教育旅行等の受入体制を整備する。					
効果	圏域の資源を活用した農村体験活動を推進することにより、農村地域の活性化を図ることができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	8,300	7,800	7,800	7,800	7,800	39,500
特定財源						
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。					

事業名	スポーツ文化合宿誘致事業		関係市町			
			能代市・三種町			
事業内容	圏域へのスポーツ文化合宿を誘致し、交流人口の拡大及び地域の活性化を図るため、地域内に宿泊し合宿等を行うスポーツ文化団体に助成する。					
効果	学生や社会人等のスポーツ文化団体の合宿を積極的に誘致することにより、交流人口を増やし、圏域経済の活性化に資することができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	11,154	11,154	11,154	11,154	11,154	55,770
特定財源						
役割分担	能代市と三種町が事業を実施し、費用を負担する。					

事業名	地域活性化イベント支援事業		関係市町			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	圏域の交流人口拡大や地域経済の活性化を図るため、補助金の交付等により地域の魅力ある観光行事、イベント等への支援を行う。					
効果	観光行事やイベント等の開催を支援することにより、圏域への観光客の誘客と地域経済の活性化を図ることができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	90,279	88,279	88,279	88,279	88,279	443,395
特定財源						
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。					

事業名	特産品販路拡大事業		関係市町			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	首都圏等での物産展への出展やアンテナショップ等により、圏域の特産品のPRを行い、販路の拡大を図る。					
効果	圏域の食や伝統工芸等を活かした特産品を広くPRすることで、販路を拡大し、地域経済の活性化につなげることができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	12,033	11,233	11,233	11,233	11,233	56,965
特定財源						
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。					

【重要業績評価指標KPI】

行祭事・イベント入込客数 881,944人（平成27年） → 900,000人

ウ 企業誘致等による雇用機会の確保

【形成協定】

圏域への企業誘致や地元事業所への支援等により雇用の場の拡大を図るとともに、新卒者・求職者の就業を支援する。

【具体的な事業】

事業名	企業誘致活動		関係市町			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	企業誘致活動や誘致済企業のフォローアップ、圏域市町合同での能代山本関東圏企業懇談会の開催等により、企業の誘致・規模拡大を促進する。					
効果	企業の新規誘致や既存企業の規模拡大等により、圏域での雇用機会を拡大することができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	30,470	29,970	27,770	27,770	27,770	143,750
特定財源						
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施するとともに、連携して情報収集等を行う。					

事業名	地域雇用対策事業		関係市町			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	新卒者や求職者への就業支援及び事業所への雇用奨励等により、雇用機会の創出を図る。					
効果	求職者や事業所への支援により、圏域での雇用の機会を増やすことができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	49,834	47,084	47,084	47,084	47,084	238,170
特定財源						
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。					

【重要業績評価指標KPI】

新規高卒者の圏域内への就職割合 36.9%（平成27年） → 40.0%

エ 農林水産業の担い手育成

【形成協定】

圏域の主要な産業である農林水産業の担い手を確保するため、従事者の育成と新規就業者への支援等を行う。

【具体的な事業】

事業名	関係市町					
	能代市・藤里町・三種町・八峰町					
事業内容	新規就農者等に対する支援や新卒者等を雇用した農業法人等に対する助成、新規参入者の呼び込み等に対する助成を行う。					
効果	就農の機会を増やすことにより、農業の担い手の確保と雇用の機会を創出することができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	28,757	28,757	28,757	28,757	28,757	143,785
特定財源						
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。					

事業名	関係市町					
	能代市・藤里町・三種町・八峰町					
事業内容	地域農業の優れた担い手の育成、確保のため、農業者の研修費等に対する支援を行うとともに、能代市農業技術センターにおいて、圏域住民の農業研修の受入を行う。					
効果	圏域の主要な産業の1つである農業の担い手を育成し、人材を確保することができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	5,430	5,430	5,430	5,430	5,430	27,150
特定財源	地域で学べ！農業技術研修費補助金					
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。 能代市は、農業技術センターにおいて農業研修生の受入を行う。					

【重要業績評価指標KPI】

新規就農者数 29人（平成27年） → 35人

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

① 地域公共交通

【基本目標】

路線バス等の輸送人員 446,846 人（平成 27 年） → 446,000 人
 大館能代空港総利用者数 123,773 人（平成 27 年） → 145,000 人

ア 地域公共交通の維持確保及び利用促進

【形成協定】

圏域内の交通手段の確保とスムーズな移動の実現を図るため、関係機関及び事業者と連携し、地域公共交通の維持確保対策と利用促進及び充実に取り組む。

【具体的な事業】

事業名	生活バス路線等維持対策事業		関係市町			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	路線バスやコミュニティバスを運行するバス事業者等への補助や、巡回バス、乗合タクシーの運行等を行う。					
効果	バス事業者等への支援や代替交通の運行等により、圏域住民の交通手段を確保することができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	157,388	157,474	157,474	157,474	157,474	787,284
特定財源	生活バス路線等維持費補助金、マイタウンバス運行費等補助金、地域内フィーダー系統確保維持費補助金					
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。					

事業名	路線バス等利用促進事業		関係市町			
			能代市・藤里町・八峰町			
事業内容	路線バスやコミュニティバス等の乗車料金の助成や乗車券の交付等を行う。					
効果	乗車料金の助成等により路線バス等の利用促進につながり、圏域における公共交通の維持確保に資することができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	24,855	24,855	24,855	24,855	24,855	124,275
特定財源						
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。					

事業名	大館能代空港利用促進事業		関係市町			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	大館能代空港の発着便を利用する住民の運賃を助成することにより、同空港の利用を促進する。					
効果	圏域と東京都を結ぶ貴重な交通機関を、安定的に維持することができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	18,289	18,417	21,550	22,250	22,810	103,316
特定財源						
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。					

【重要業績評価指標KPI】

路線バス等の輸送人員 446,846人（平成27年） → 446,000人

大館能代空港総利用者数 123,773人（平成27年） → 145,000人

② 道路等の交通インフラの整備

【基本目標】

道路及び道路構造物の効率的な維持管理

ア 道路等の維持管理の連携

【形成協定】

市町間での道路構造物の点検・修繕業務の委託や除雪路線の振替等により、道路等の交通インフラの効率的な維持管理を行う。

【具体的な事業】

事業名	道路等の維持管理						関係市町		
							能代市・藤里町・三種町・八峰町		
事業内容	市町間での道路構造物の点検・修繕業務の委託や除雪路線の振替等により、道路等の交通インフラを効率的に維持管理する。								
効果	道路や道路構造物の効率的な維持管理とコストの低減を図ることができる。								
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計			
	53,773	5,435	5,435	5,435	5,435	75,513			
特定財源	社会資本整備総合交付金								
役割分担	維持管理を行う市町が事業を実施し、それぞれ必要な費用を負担する。								

【重要業績評価指標KPI】

道路及び道路構造物の効率的な維持管理

③ 地域内外の住民との交流・移住促進

【基本目標】

人口の社会増減数 △403 人（平成 27 年） → △320 人

ア 移住定住の促進

【形成協定】

移住者のための住環境の整備や、首都圏等への情報発信等を連携して行い、圏域への移住定住を促進する。

【具体的な事業】

事業名	空き家活用事業					
	関係市町 能代市・藤里町・三種町・八峰町					
事業内容	空き家バンクの運営や、空き家のリフォーム助成等により、移住希望者の受入体制の整備や移住の促進を図る。					
効果	空き家を有効活用できるとともに、住環境の整備を図ることで移住定住を促進することができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	19,646	19,646	19,646	19,646	19,646	98,230
特定財源	空き家の利活用推進事業費補助金					
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。					

事業名	移住定住促進事業					
	関係市町 能代市・藤里町・三種町・八峰町					
事業内容	パンフレット作成、移住相談会への参加、ふるさと体験ツアー等により、圏域の移住定住情報を広く発信し、定住を促進する。					
効果	積極的なPR活動により、首都圏等から圏域への移住を増やすことができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	14,989	14,989	14,989	14,989	14,989	74,945
特定財源						
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。 能代市は、共同での事業について、関係町の協力を得ながら検討する。					

事業名	移住支援金		関係市町			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	東京圏から移住し、中小企業等へ就職又は起業した者に対して支援金を交付し、圏域への移住定住を促進する。					
効果	圏域内の中小企業における人材確保に資するとともに、定住人口の増加につなげることができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
				8,000	8,000	16,000
特定財源	地方創生移住支援事業費補助金					
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。					

【重要業績評価指標KPI】

市町への相談を経た移住者数 41人（平成27年） → 50人

イ 婚活支援事業の充実

【形成協定】

圏域での成婚を促進するため、男女の出会いの場の創出等に取り組む。

【具体的な事業】

事業名	出会い創出事業		関係市町			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	婚活イベントに対する支援等を行い、圏域住民の出会いの機会を創出する。					
効果	男女の出会いの機会を増やし、圏域住民の成婚を促進することができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	6,891	6,891	6,891	6,891	6,891	34,455
特定財源						
役割分担	各市町がそれぞれの地域で圏域住民を対象とした事業を実施し、費用を負担する。 各市町は、相互の婚活イベントを住民に周知する。					

事業名	あきた結婚支援センター会員登録助成事業		関係市町			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	男女の出会いの場を提供する「あきた結婚支援センター」への入会登録料を助成する。					
効果	結婚相手を見つけない男女のセンターへの登録を促進し、出会いの機会を増やすことができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	620	650	650	650	650	3,220
特定財源						
役割分担	各市町がそれぞれの地域の入会者に助成し、費用を負担する。					

【重要業績評価指標KPI】

婚姻数 239件（平成26年） → 250件

ウ 情報発信の強化

【形成協定】

圏域内住民の相互の交流や、圏域外住民との交流による移住を促進するため、様々な媒体を活用して広く情報発信を行う。

【具体的な事業】

事業名	圏域情報発信事業		関係市町			
			能代市・藤里町・三種町・八峰町			
事業内容	ホームページやソーシャルネットワーキングサービスなど、様々な媒体を活用して情報発信を行うとともに、共同での情報発信について検討する。					
効果	圏域の情報を広く発信することで、交流人口の増加や移住の促進につなげることができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
特定財源						
役割分担	各市町がそれぞれ情報発信を行い、必要な費用を負担する。能代市は、共同での情報発信について、関係町の協力を得ながら検討する。					

【重要業績評価指標KPI】

市町ホームページアクセス数 一件（平成27年） → 1,000,000件

④ その他

ア 松枯れ被害の対策

【形成協定】

圏域内の松枯れ被害拡大を防止するため、伐倒駆除及び薬剤散布等の防除対策を行う。

【具体的な事業】

事業名	松くい虫対策事業		関係市町			
			能代市・三種町・八峰町			
事業内容	圏域の松林を松くい虫から保護するための伐倒駆除及び薬剤散布等を行う。					
効果	松くい虫対策を徹底することで、境界を越えて拡大する恐れのある松枯れ被害を抑制することができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	147,192	143,192	142,192	132,192	132,192	696,960
特定財源	保全松林緊急保護整備事業費補助金、松くい虫防除対策事業費補助金、マツ林健全化事業費補助金、松くい虫被害先端地域特別対策事業業務委託					
役割分担	各市町がそれぞれの地域で事業を実施し、費用を負担する。					

【重要業績評価指標KPI】

民有林における松くい虫被害量 11,360 m³ (平成 27 年) → 10,000 m³

(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

① 圏域内市町の職員等の交流

【基本目標】

能代山本定住自立圏構想検討会の開催

ア 圏域市町職員の交流・合同研修

【形成協定】

圏域市町の広域連携をより深化するため、広域的な視点での政策研究等を行う。

【具体的な事業】

事業名	関係市町					
	能代市・藤里町・三種町・八峰町					
事業内容	職員の圏域マネジメント能力の強化や広域的な視点での政策形成能力向上のための研修等を実施する。					
効果	広域連携を意識した研修等の実施により、圏域での連携を更に深化することができる。					
事業費 (千円)	H28	H29	H30	H31	H32	計
	1,150	1,150	1,150	1,150	1,150	5,750
特定財源						
役割分担	各市町がそれぞれの職員に対し研修等を実施する。 能代市は、検討組織等の企画・調整を行う。					

【重要業績評価指標KPI】

定住自立圏研修等の実施 0回/年(平成27年) → 1回/年

5. 資料編

(1) 能代山本定住自立圏共生ビジョンの主な策定経緯

平成27年	
9月16日	能代市が中心市宣言を行う。
10月23日	第1回能代山本定住自立圏構想懇談会を開催。
11月25日	第2回能代山本定住自立圏構想懇談会を開催。
12月11日	三種町議会において、定住自立圏の形成に関する協定の締結議案を議決。
12月15日	藤里町議会において、定住自立圏の形成に関する協定の締結議案を議決。
12月16日	八峰町議会において、定住自立圏の形成に関する協定の締結議案を議決。
12月24日	能代市議会において、定住自立圏の形成に関する協定の締結議案を議決。
12月25日	能代市と藤里町、三種町及び八峰町とが、1対1で定住自立圏の形成に関する協定を締結。
平成28年	
1月28日	第1回能代山本定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催。
2月1日 ～3月2日	能代山本定住自立圏共生ビジョン（案）についてのパブリックコメントを実施。
2月22日	第2回能代山本定住自立圏共生ビジョン懇談会（資料送付による書面会議）
3月25日	能代山本定住自立圏共生ビジョンを策定。

(2) 中心市宣言

中心市宣言

能代市は、秋田県北西部に位置し、北には世界自然遺産白神山地が連なり、奥羽山脈に源を発する米代川が市の中央を東西に流れています。沿岸部には広大な面積を誇る砂防林「風の松原」が広がる自然あふれる地域です。

平成18年3月21日、母なる米代川で固く結ばれた能代市と二ツ井町は、互いのまちづくりの方向性を尊重しながら、地域の発展を目指して合併し、新しい能代市が誕生しました。

現在は、「みんなでつくる“わ”のまち能代」を将来像に掲げ、まちづくりを進めています。

また、本市と藤里町、三種町、八峰町で構成される能代山本地域は、古くから結びつきが強く、通勤、通学、通院、買い物などで一体の生活圏を形成しており、これまで、能代山本広域市町村圏組合を設置して、消防・救急、ごみ処理、し尿処理等の事務を共同処理するなど、広域的な課題に協力して取り組んできました。

現在、日本は、人口減少時代に突入しており、少子化、高齢化の急速な進行や、経済社会に与える影響が懸念されています。地方にあっても、大都市への若年層の流出と、出生率の低下があいまって、急速に人口減少が進行しており、地域社会に及ぼす影響もさらに厳しさを増すことが予想されます。

今後、さらに進展する人口減少社会を見据えたとき、能代山本地域が各地域の魅力や特性を活かしながら、今まで以上に連携・協力し、地域全体での定住につながる取組を進める必要があります。

こうしたことから、本市は、大都市圏への人口流出を食い止め、能代山本地域の定住促進と活性化を図るため、定住自立圏構想の「中心市」となることを宣言し、生活圏を共にする山本郡3町との定住自立圏の形成を目指します。

平成27年9月16日

能代市長 齊藤 滋 宣

(3) 能代山本定住自立圏構想懇談会及び共生ビジョン懇談会

能代山本定住自立圏構想懇談会設置要綱

(設置)

第1条 能代山本地区における定住自立圏の形成に向けた検討に関し、関係者の意見等を幅広く反映させるため、能代山本定住自立圏構想懇談会（以下「懇談会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 懇談会は、能代山本地区における定住自立圏の将来像及び具体的な取組等の検討を行う。

(組織)

第3条 懇談会は、委員15人以内をもって組織する。

2 委員は、定住自立圏形成協定に関連する分野の関係者等並びに藤里町、三種町及び八峰町から推薦された者のうちから、市長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から能代山本地区の定住自立圏形成協定が締結された日までとする。

(会長及び副会長)

第5条 懇談会に会長及び副会長をそれぞれ1人置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、懇談会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 懇談会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求めることができる。

(費用弁償)

第7条 委員が会議に出席したときは、費用弁償として、能代市職員等の旅費に関する条例（平成18年能代市条例第38号）に規定する7級に相当する額を支給する。前条第2項に規定する委員以外の者が出席した場合も同様とする。

(庶務)

第8条 懇談会の庶務は、企画部総合政策課において処理する。

(その他)

第9条 この告示に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成27年10月23日から施行する。

(この告示の失効)

2 この告示は、能代山本地区の定住自立圏形成協定の締結の日限り、その効力を失う。

能代山本定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱

(設置)

第1条 能代山本地区における定住自立圏共生ビジョンの策定及び変更にあたり、関係者の意見等を幅広く反映させるため、能代山本定住自立圏共生ビジョン懇談会(以下「懇談会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 懇談会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 定住自立圏共生ビジョンの策定及び変更に係る検討に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、能代山本地区における定住自立圏構想の推進に関すること。

(組織)

第3条 懇談会は、委員15人以内をもって組織する。

2 委員は、定住自立圏形成協定に関連する分野の関係者並びに藤里町、三種町又は八峰町から推薦された者のうちから、市長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年以内とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けたときに補充する補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 懇談会に会長及び副会長をそれぞれ1人置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、懇談会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 懇談会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求めることができる。

(費用弁償)

第7条 委員が会議に出席したときは、費用弁償として、能代市職員等の旅費に関する条例(平成18年能代市条例第38号)に規定する7級に相当する額を支給する。前条第2項に規定する委員以外の者が出席した場合も同様とする。

(庶務)

第8条 懇談会の庶務は、企画部総合政策課において処理する。

(その他)

第9条 この告示に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この告示は、平成28年1月28日から施行する。

能代山本定住自立圏構想懇談会委員
能代山本定住自立圏共生ビジョン懇談会委員

	所属団体等	氏名	備考
1	能代市山本郡医師会 事務長	高谷 貞雄	
2	おらほの産科小児科を守る会 代表	大谷 美帆子	
3	能代商工会議所 専務理事	佐藤 昇	会長
4	能代山本地区観光連盟 事務局長	山田 雄一	
5	能代公共職業安定所 所長	川口 一正	
6	秋北バス株式会社能代営業所 所長代理	多賀谷 政人	
7	能代市地域おこし協力隊	西村 武美	
8	藤里町住民代表	袴田 俊英	藤里町推薦
9	藤里町保健師	小山 恵里子	藤里町推薦
10	特定非営利活動法人一里塚 理事長	清水 昭徳	三種町推薦
11	株式会社桜田畜産 専務取締役	桜田 澄子	三種町推薦、副会長
12	岩館第一自治会 会長	岡田 辰雄	八峰町推薦
13	八峰町観光協会事務局	阿部 昌子	八峰町推薦

(敬称略)

オブザーバー

	団体名等	備考
1	秋田県 企画振興部 市町村課	
2	秋田県 山本地域振興局 総務企画部 地域企画課	
3	藤里町	
4	三種町	
5	八峰町	
6	能代山本広域市町村圏組合事務局	

(4) パブリックコメントの実施結果

◇公表資料

能代山本定住自立圏共生ビジョン（案）

◇募集期間

平成28年2月1日（月）から3月2日（水）まで

◇募集方法

能代市ホームページでの閲覧のほか、以下の場所に閲覧資料を備え付け、直接提出、郵送、ファクシミリ、電子メールにより意見を募集

【能代市】市役所第1庁舎1階市民室、二ツ井町庁舎1階市民フロア、向能代・南・扇淵・檜山・鶴形・常盤の各地域センター、富根出張所

【藤里町】役場本庁舎2階総務課

【三種町】役場本庁舎1階企画政策課

【八峰町】役場庁舎1階企画財政課、ファガス、峰栄館

◇対象者

- ①能代市山本郡に在住、在勤、在学する方
- ②能代市山本郡に事務所または事業所を有する個人や団体
- ③その他利害関係がある個人や団体

◇寄せられた意見

1件（1項目）

能代山本定住自立圏共生ビジョン

発行 能代市

平成28年3月 策定

平成29年3月 変更

平成30年3月 変更

平成31年3月 変更

編集 能代市企画部総合政策課

〒016-8501 能代市上町1番3号

TEL 0185-89-2142

FAX 0185-89-1770

<https://www.city.noshiro.akita.jp>